

令和7年松本市議会6月定例会
市長閉会あいさつ

[7.6.26(木) PM1:30]

発言の機会をいただきましたので、閉会に当たり、ごあいさつを申し上げます。

議員の皆様には、18日間の会期中、熱心にご審議を賜り、それぞれの議案を原案どおり決定していただいたことに対しまして、厚く御礼を申し上げます。

市役所新庁舎建設を巡り、「(仮称)松本市役所保健所庁舎」の整備基本計画を了承いただき、設計業務に関わる予算を可決していただきました。

(仮称)松本市役所保健所庁舎は、人口重心に近く、周辺に福祉施設が集積する南松本を建設地として、動物愛護センターや検査機能などを持つ、保健所を柱とする3階建ての庁舎を設置する計画となっています。

松本市民の健康を総合的に支えるとともに、「市民に身近な市役所づくり」の一環として、専門的な相談を受け付ける対面窓口と各種の手続を行えるオンライン窓口を備えた施設としてまいります。

2028年度末の供用開始を目指して速やかに基本設計に着手するとともに、新たな本庁舎を含めた建設計画全体の進捗作業を一步一步推し進めてまいります。

次に、「東アジア文化都市2026松本」について申し上げます。

松本市が掲げるメインテーマは、「ARTS & PEACE」であります。戦後80年の節目に、日本・中国・韓国の歴史を見つめ直し、文化・芸術による交流を通じて、東アジア地域の平和につなげていくという想いを込めています。

昨日発表したロゴマークは、異なる色彩の三つの「円」を日中韓の3か国に見立て、「人や文化が、独立しながら、行く先々で融合し、新たな価値を生み出す」ことを表現しています。使い方によって形や組み合わせを変えられる仕組みを活かし、多様な媒体やプロモーションを通じて開催の意義を国内外にPRしてまいります。

具体的なイベントにつきましては、4つの分野のディレクターを中心に準備を進めていまして、次世代を担う若者らが互いに学び合うとともに、地域固有の伝統文化の価値を再評価する機会を創出してまいります。

北アルプスを越えて松本と高山を結ぶ、全長１１７キロメートルの「信飛トレイル」が、来月１４日にオープンします。

トレイルとは、里山や森林にある「歩くための道」をバックパックを背負って旅する、欧米を中心に愛されてきたレジャーです。車の移動では見えない自然や風景、歴史や文化を感じ取り、地元の人との触れ合いや道を歩く者同士の絆を楽しめることが魅力とされています。

明治維新直後の一時期、同じ県であった松本市と高山市は、環境省の「Big Bridge構想」の具現化を図るとともに、観光庁の「高付加価値なインバウンド観光地づくり」のモデル地域に選定され、上質な体験ができる魅力的な観光エリアとして、国内外の注目度が高まっています。

信濃と飛騨の文化的交流を支えた古道や街道を、１日２０キロほど歩くロングトレイルのコースに整備する「信飛トレイル」は、松本城太鼓門を起点に、梓川沿いを島々谷へ、徳本峠を越えて上高地へ、北アルプスを越えて奥飛騨温泉郷へ、そして高山の市街地へ。自然と人が共に暮らしてきた風景を未来につなぐ取り組みです。

３年前から準備を進めてきた運営団体とともに、持続可能なトレイルの保全に取り組み、世界のハイカーに向けて積極的にＰＲしてまいります。

最後に、ふるさと納税について申し上げます。

昨年度の松本市への寄附は、１万２，３００件、５億２，２００万円に上り、件数・金額ともに過去最高を記録しました。

ふるさと納税に関しては、令和３年度から積極的に取り組む方針に転換し、地元の事業者などと連携して、松本らしい魅力ある返礼品の開拓を行ってきました。昨年度は返礼品の種類や数を大幅に拡充し、農産物や加工食品、家具や家電、アクティビティや宿泊まで、バランスよく取り揃えたことが寄付額の増加につながったと捉えています。

ふるさと納税を巡っては、返礼品を地場産品とする基準に反して産地を偽装していた事実が判明し、対象自治体の指定を取り消される事案も起きています。

「ふるさとへの思いを寄附という形で実現する」という制度本来の趣旨に沿って適切な運用に努めることで、松本市のブランドの向上やあらゆる産業の振興、さらには移住・定住の増加へとつなげていきたいと考えています。

結びに当たり、議員の皆様におかれましては、時節柄、健康にご留意いただくとともに、松本市民のために引き続き一層のご支援ご協力

を賜るようお願い申し上げ、6月定例会閉会のあいさつといたします。

ありがとうございました。

(以 上)